

2022.2.18（金）～2.25（金）

京都市立勧修中学校学校運営協議会紙面開催

令和3年度 後期学校評価の分析

1. 教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

『互いを認め合い、すすんで学び続ける児童・生徒の育成』

- ・コロナ禍、行事の中止、授業形態の制約（集団活動の制約）などにより生徒同士が協力し合いながら人間力を高めていく活動が十分にはできず、教育目標の十分な達成には至っていないが、GIGAスクール構想の推進により新たな手法も活用することが根付き始めた。次年度もコロナ禍は続くであろうが、GIGAスクール構想を突破口としていきたい。
- ・教育目標については、小中で共有して3年目となる。小中校長会において検討を進めているが、次年度においても同じ目標で取組を進めていくことが望ましいと考える。また、この教育目標を達成するための、より具体的な行動目標の実践が必要である。

学校運営協議会より

・コロナ禍において、オミクロン株の感染力拡大で、放課後学習会の再開を目前にしての中止がとても残念でした。結局、この3月で卒業していく生徒さんには中途半端な関わりの今までのお別れになってしまふのが本当に申し訳ないです。

卒業生の皆さんとの今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

・全体的に、前期と比較して数値的には向上している結果は、様々な要因もあるでしょうが、先生方の日ごろの教育活動の成果であると思います。

・既に検証済みかもしれません、項目によっては、全体的な前期アンケートの比較や年度ごとの推移だけではなく、同じ生徒集団を追跡して結果を分析していくことも必要なではないかと思いました。

2. 「確かな学力」に関する分析・・・知

各種指標結果 () 内は前期のデータ

- ・授業において自分の意見が言えているか（生徒）→言えている 60.7% (54.2%)
- ・授業の中で話し合い活動ができるか（生徒）→できている 87.8% (80.5%)
- ・家庭学習計画表はしっかりと作成し活用できているか（生徒）→できている 33.6% (35.8%)
- ・生徒の「困り」に応じた指導を心がけているか（教員）→心がけている 88.2% (55.5%)
- ・図書館を活用した授業が行えているか（教員）→行えている 11.8% (0 %)
- ・GIGA端末を活用できている（生徒）→90.5%（後期から新設の項目）
- ・GIGA端末を活用できている（教員）→58.9%（後期から新設の項目）

分析（成果と課題）

- ・授業での生徒のアウトプットは、数値的には向上しているが、それが学力とどうかかわっているのか検証が必要
- ・家庭学習計画表の作成は、各学年ともに取り組んでいるが、家庭での活用という部分では

依然低い数値にとどまっている。家庭学習の推進が急務である

- ・GIGA 端末の活用においては、生徒の多くは活用できたと感じているが、教員側は単に使用するという観点ではなく、その活用の質的なものにおいて、課題を感じている。

分析を踏まえた取組の改善

○次年度の学習面での改善点は次の 2 点

- ・家庭学習の推進と充実（家庭学習計画表の作成は継続していくが、実際の家庭での活用を点検、指導を教科・学級において細かく実施）
- ・GIGA 端末の活用は、今年度以上に進めるとともに、その活用の質的な部分（授業のどこで使うのかなど）の研究を学校全体として実施する

学校運営協議会より

・生徒の意識が向上し、行動が変容してくれれば、教員があえて指導する場面は減少していくと考えられます（理想かもしれません）。そうすれば、教員に対する質問「学習のルールを守らせている」の結果が低下してきます。生徒はおおむね「守っている」との意識のようですので、「生徒は学習のルールを守っている」というような問い合わせてもよいのかもしれません。

・生徒への質問と教職員への質問がうまくかみ合っていないので、比較しにくく感じました。生徒への質問は、「自分が授業中に話し合い活動に参加できているかどうか」を判断して回答していると思います。一方、教員には「シェア型学習」と尋ねていますので、話し合い活動に限らない活動を想定しているように思います。協働的な学びの状況についての質問を意図しているのであれば、生徒に対しては「シェア型学習」に積極的に参加できているかどうか（他者の意見や発表を聞いて参考にしたり、自分の意見を言えているかどうか等）について尋ねるほうが適当なのではないかと思いました。

・「分析」の方にもありました、リアルにグループ学習や話し合いの機会を設けるのは、感染予防の観点からはためらわれますし、大変なご苦労があったのではないかと思います。GIGA 端末がありますと、文字情報やデータ、成果物を介しての生徒間の相互交流はしやすくなりますので、ぜひ先生方のグッドプラクティスを共有して、よりよい学びにつなげていただければと願います。

2. 「豊かな心」に関する分析・・・徳

各種指標結果（）内は前期のデータ

- ・楽しく学校に通えているか（生徒）→通えている 86.7%（81.9%）
- ・互いを尊重し、認め合い、支えあっているか（生徒）→できている 88.5%（85.1%）
- ・自ら考え、正しく判断して行動できているか（生徒）→できている 86.4%（85%）
- ・ゲームやケータイの使用についてルールを決めている（生徒）→決めている 45.6%（45.6%）
- ・家庭で自分の役割を果たせているか（生徒）→果たせている 79.1%（65.2%）

分析（成果と課題）

- ・各種指標結果から数値的には前期から向上傾向がみられる。とくに家庭内での自分の役割

については 14P の上昇がみられる。これはコロナ禍、家庭で過ごすことが多くなったことから、家庭でのコミュニケーションが深まったのではないかと推察される。今後も道徳・人権学習・総合的な学習・生徒会活動など心を育てる取組を重視していく

分析を踏まえた取組の改善

- ・道徳、人権学習、総合的な学習、生徒会活動、学級活動など心を育てる取組をさらに深化させますめしていく。
- ・一方で情報モラルについて学び、実践する態度を養う
- ・家庭教育学級や PTA 活動を通じて、家庭からの働きかけを強化していく

学校運営協議会より

- ・『あいさつ』については、1月末に一度学校に伺ったとき、私が駐輪場に自転車を停めていたら、校舎の周囲を一人で走っていた運動部の生徒さんが、向こうから、元気にとっても気持ちの良い挨拶をしてくださいました。集団で活動している時よりも、声をかけづらい状況だったと思いますが、とても爽やかでした。
- ・教員の「生徒には積極的にあいさつができる」との質問は適切でしょうか?できていないと回答するとすれば、教員として問題があると思うのですが。

3. 「健やかな体」に関する分析・・・体

各種指標結果（ ）内は前期のデータ

- ・規則正しい生活ができているか（生徒）→できている 70.1%（67.4%）
- ・朝ごはんを毎日食べているか（生徒）→食べている 87.9%（86.6%）

分析（成果と課題）

- ・食習慣など、基本的な生活習慣に改善傾向はみられるが、3割の生徒は規則正しくないと考えている点を重要視したい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・次年度に向け、具体的にどのような点が規則正しくないのか検証していく
- ・次年度も with コロナの生活様式は、継続されることから、新しい生活様式のさらなる定着を図る

学校運営協議会より

- ・『規則正しい生活』については、先生方の取り組みとしては、ほぼ 100%できていることに対して、生徒や保護者の（あまりできていないを含んでの）できていないの回答%が多く、その差が縮まってくる改善策が検討出来れば良いと感じました。
- ・「学校からの情報の伝達」についてですが、生徒、保護者の回答で「あまり見せていない」「見せていない」の割合を合わせるとどちらも 20%を超えている点が気になりました。学校からのお知らせが 2 割の保護者に十分に伝わっていない可能性があるのは問題があるのではないかと思いました。

4. 「業務改善・教職員の働き方改革」に関する分析

各種指標結果（）内は前期のデータ

- ・職務において効率を考えた働き方ができている（教員）→できている 94.1% (77.8%)
- ・超過勤務の縮減に努めている（教員）→努めている 76.4% (55.5%)

分析（成果と課題）

- ・前期と比較すると働き方改革はすすんできたといえる。
- ・しかしながら、それは前期と比較してのことであり、適正な水準までに達しているとは言えない。委員会等から示されている水準に近づける努力は必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ただ単に数値的な働き方改革を進めるのではなく、教育の質を落とさない働き方も必要である。そのためには、学校のできること（学校の役割）とできないこと（役割でないこと）を明確にし、学校内外に示すことが必要である。

学校運営協議会より

特になし。

5. 「いじめの防止」に関する分析

各種指標結果（）内は前期のデータ

- ・全教職員がいじめ防止等基本方針の内容について理解し、組織的対応に努めている（教員）
→努めている 100% (100%)
- ・学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。（生徒）
→知っている 9.5% (9.5%)
- ・学校評価（生徒）：「友だちに嫌な思いをさせないようにしている。」
→している 88.6% (85.1%)
- ・生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。（教員）
→している 100% (100%)
- ・保護者や学校運営協議会等に、いじめ防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。
(教員)
→している 100% (100%)

分析（成果と課題）

概ね高い数値ではあるが、「学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している」という項目は、実際は「いじめを担任・学年先生などに相談できますか」といった内容に変えたほうが現状の把握にはいいのではないかと感じる。しかしながら学校にいじめに特化した対応組織（いじめ対策委員会）があることを周知徹底することには大きな意味があると考える。

分析を踏まえた取組の改善

- ・年度当初に学校だよりで「いじめ対策委員会」の存在を明確にし、いじめのない学校づくりを目指していることを周知する

・いじめの予防、対応等につき教職員研修、学級での指導、保護者への啓発をすすめていく。

学校運営協議会より

前回の運営協議会の中でも上がっていた『いじめ対策委員会のメンバーの紹介』については、分析にある質問内容の変更が、わかりやすくて良いと感じました。確かにいじめ対策委員会の存在の明確化は大切なことですが、一番大事なことは、いじめに直面している生徒が悩んだり困っていることを本音で相談したいと思える先生の存在、または、SOSを発信していることに気付いてくれる先生がいてくださることだと思います。